

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果についての報告

義務教育課

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

国・公・私立の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年（原則として全児童生徒）

※特別支援学校の小学部第 6 学年、中学部第 3 学年及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒も対象であるが、以下に該当する児童生徒は対象外とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数/数学、英語）
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容はそれぞれの教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
 - ③ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。
- (2) 質問調査（生活習慣や学習環境等に関する質問調査）
 - ① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査）
 - ② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

4 調査実施日

(1) 教科に関する調査

4月20日(月)～23日(木) 中学校（英語：3技能）※CBTによる調査

※3技能：聞くこと、読むこと、書くこと

4月24日(金)～5月29日(金) 中学校（英語：話すこと）※CBTによる調査

4月23日(木) 小学校（国語・算数）・中学校（国語・数学）

(2) 質問調査

4月1日(水)～17日(金) 学校質問調査 4月20日(月)～23日(木) 生徒質問調査

4月18日(金)～4月30日(金) 児童質問調査

5 本県の参加状況(公立小中学校のみ) ※令和8年7月27日公表値

	公立小学校 【第6学年】	公立中学校 【第3学年】	合計
参加校数	250校	142校	392校
参加者数	14,461人	13,653人	28,114人

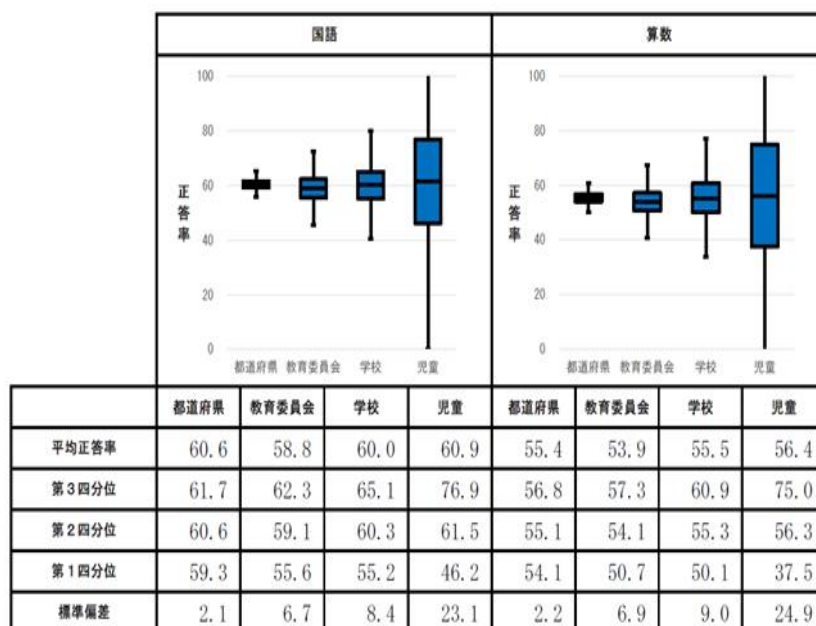
※参加者数は小中ともに国語の受験者数を表示

6 教科に関する調査結果の概要

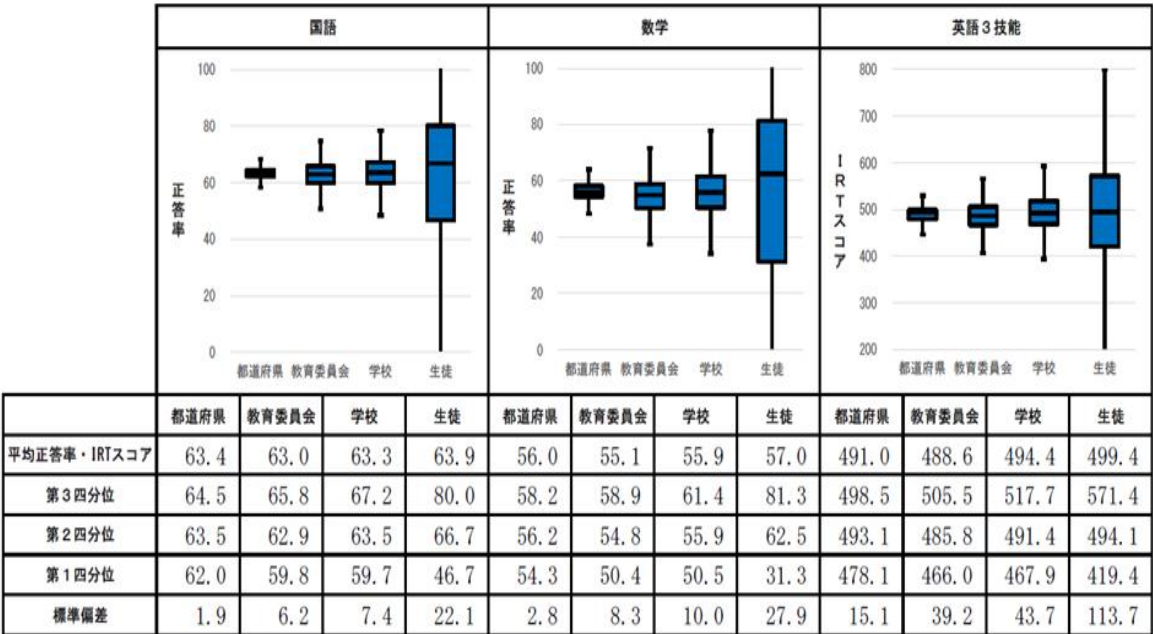
文部科学省より提供された、「令和8年度全国学力・学習状況調査報告書」によると、「小学校及び中学校における都道府県・指定都市別の平均正答率については、ばらつきの状況は極めて狭い範囲内に収まっている。各教育委員会、各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、前回調査と比べ、ばらつきに変化は見られない。」とされている。

なお、諸調査問題は、各年度の問題の難易度を調整する設計とはされておらず、年度によって出題内容も異なる。このため、過年度の正答率と単純に比較することは留意が必要である。

【小学校：様々な集計単位で見る正答率・スコアのばらつき】



【中学校：様々な集計単位で見る正答率・スコアのばらつき】



7 教科調査・質問調査に関する結果

(1) 小学校 平均正答率(%)

教科	R8 沖縄県	R8 全国
国語	57.0	60.9
算数	50.0	56.4

小学校においては、平均正答率は全国水準の範囲内で推移しているが、今年度は国語で3.9ポイント、算数は6.4ポイント下回った。

●国語の問題では、知識・技能として「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題や、思考・判断・表現として「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題等で課題が見られた。

●算数の問題では、知識・技能として「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる」問題や、思考・判断・表現として「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題等で課題が見られた。

(2) 中学校（国語・数学）平均正答率(%)

教科	R8 沖縄県	R8 全国
国語	58.0	63.9
数学	47.0	57.0

中学校においては、平均正答率は全国水準の範囲内で推移しているが、今年度は国語で5.9ポイント、数学は10.0ポイント下回った。

●国語の問題では、知識・技能として「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる」問題や、思考・判断・表現として「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる」問題等で課題が見られた。

令和 8 年第 11 回教育委員会会議 報告事項（6）

- 数学の問題では、知識・技能として「反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる」問題や、思考・判断・表現として「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題等で課題が見られた。

(3) 中学校（英語） ※3 技能（聞くこと、読むこと、書くこと）の結果

☞ 秋ごろ「話すこと」を加えた英語 4 技能の結果が公表

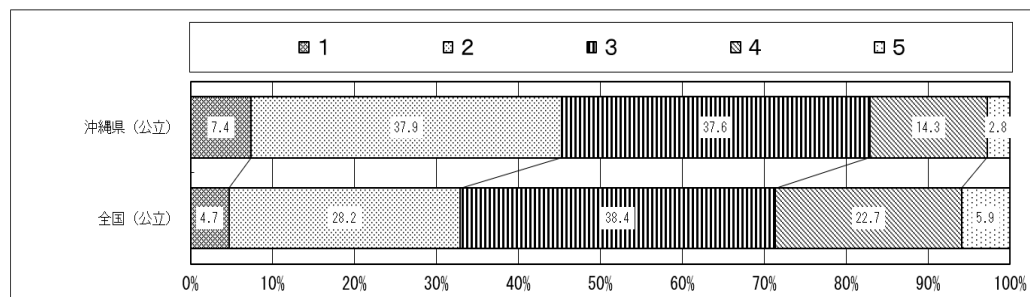
中学校英語の調査は、CBT（コンピュータ使用型調査）・IRT（項目反応理論）が導入され、問題への動画の使用や画面上での操作で解答できる方法で実施された。

本県の平均 IRT スコアは 464 で、基準とされる IRT バンド 3 の範囲内にあった。また、バンド 1 及び 2 の生徒の割合が全国より多い傾向であった。

【IRT スコア・IRT バンド】 沖縄県：IRT スコア 464

IRT バンド	1	2	3	4	5
IRT スコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～

【IRT バンド分布比較】



- 英語の問題では、知識・技能として「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」問題や、思考力・判断力・表現力として「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」問題等で課題が見られた。

(参考) 全国学力・学習状況調査における IRT スコア・IRT バンドについて

- ① IRT スコア…IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表す。
- ② IRT バンド…IRT スコアを 1～5 段階に区切ったもの。3 を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。

※IRT スコア・IRT バンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

- ③ 全国学力・学習状況調査に IRT を導入するメリット

- ア 調査日の複数設定が可能となり、各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。また、今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能となる。
- イ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

令和 8 年第 11 回教育委員会会議 報告事項（6）

(4) 児童生徒質問調査 ※肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)

児童生徒質問【成果】全国平均を上回る主な質問項目	R8 小学校		R8 中学校	
	県	全国	県	全国
(小中 8) 自分には、よいところがあると思いますか	86.4	85.6	87.5	84.0
(小中 9) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.1	91.4	92.2	90.9
(小中 35) これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。 ※ほぼ毎日～週 3 日以上と回答	74.3	68.8	86.8	78.2
(小中 55) 国語の授業で学習したことは、社会に出たとき役に立つと思いますか。	93.1	90.4	89.7	88.2
(小中 63) 算数・数学の授業で学習したことは、社会に出たとき役に立つと思いますか。	93.8	91.0	80.2	76.5
(中 72) 英語の授業で学習したことは、社会に出たとき役に立つと思いますか。	—	—	90.3	87.6

○授業や教育活動全体において、教師による児童生徒の良さや成長を認め、評価する取組を通して、児童生徒が安心して学べる環境が整ってきている。

○ICT 機器を日常の学習ツールとして活用する環境整備と授業改善が各学校で取り組まれていると考えられる。

○各教科の学びを社会や生活と結びつける授業づくりが取り組まれる等、学習の有用感を育くむことができていると考えられる。

児童生徒質問【課題】全国平均を下回る主な質問項目	R8 小学校		R8 中学校	
	県	全国	県	全国
(小中 29) あなたの家には、およそどれくらいの本（雑誌、新聞、教科書は除く）がありますか。 ※ 25 冊以下と回答	46.2	33.8	49.0	36.7
(小中 38) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか。	58.7	66.4	60.9	65.5
(小中 42) 学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。	82.9	85.7	84.9	87.0

●全国と比べ SES（社会経済的背景）が低いグループが多く、よりきめ細かな児童生徒理解に基づく支援が必要と考える。

●授業の発表などで、図や表を選んだり話の順番を工夫したりして、自分の考えを相手にわかりやすく伝える場面の設定や、授業の中で友達との意見交換等を通して、自分の考えを深めたり新しい気づきを得たりする場の設定が必要である。

令和 8 年第 11 回教育委員会会議 報告事項（6）

(5) 学校質問調査 ※肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)

学校質問【成果】全国平均を上回る主な質問項目	R8 小学校		R8 中学校	
	県	全国	県	全国
（小中 17）児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立していますか。	98.8	97.3	98.6	95.9
（小 70 - 4 中 78 - 4）児童生徒同士がやりとりする場面では、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか。 ※ほぼ毎日～週 3 日以上と回答	52.0	42.5	43.6	36.1

○教育課程の編成・改善に向けて、児童生徒の状況や各種データを根拠とした組織的な学校経営（PDCA サイクル）が機能していると考えられる。

○児童生徒が自分のタブレット等を使い、お互いに意見交換したり調べたことを共有したりする授業改善が進んできていると考えられる。

学校質問【課題】全国平均を下回る主な質問項目	R8 小学校		R8 中学校	
	県	全国	県	全国
（小中 27）授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。	77.6	78.9	79.6	81.4
（小中 30）授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている	62.4	64.4	54.2	56.7

●自分の考えを分かりやすく構成し発表する場の設定や自分で勉強の目標を決め、計画を立てて学習を進める機会を学校全体で増やしていく必要があると考えられる。

8 今後の取組

- ・ 調査結果分析を行い、各学校、市町村教育委員会及び教育事務所等と課題を共有し、課題解決に向けて連携・協働する。
- ・ 各学校においても調査結果分析を行い、各学校の現状及び課題を踏まえた具体策を講じるとともに、引き続き PDCA サイクルに基づいた改善を推進する。
- ・ 各種連絡協議会において、調査結果説明及び対応策等の協議を行うとともに、指導主事等による学校訪問を引き続き行い、子供の姿に基づく授業改善を中心とした「自立した学習者」育成プロジェクトの更なる推進を図る。